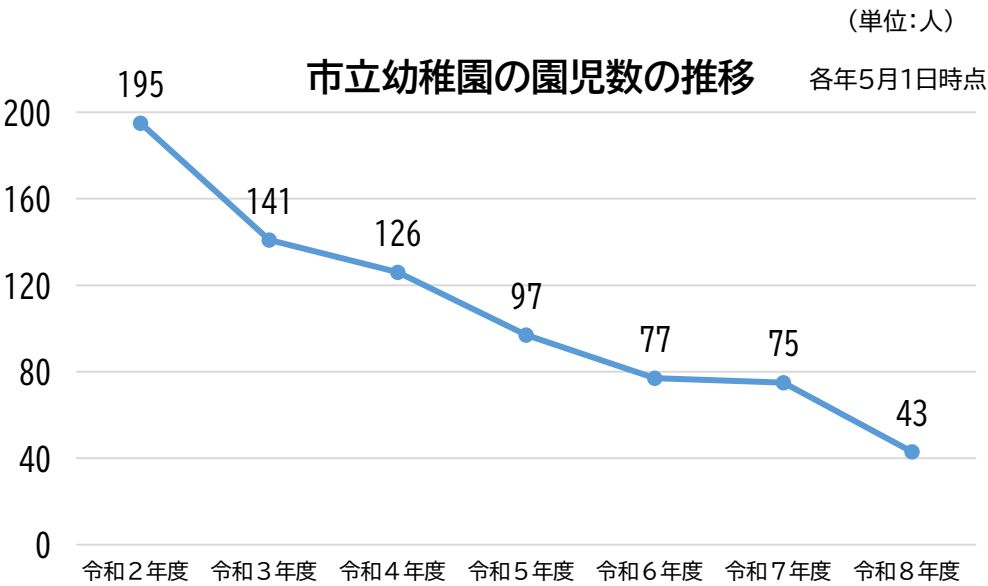


市立幼稚園の現状(吹田第三・東佐井寺・片山・東山田)

- ◆ 本市の市立幼稚園(公立幼稚園)は、少子化や保育ニーズの高まりといった社会環境の変化に対応するため、統廃合や認定こども園化を進め、現在は4園となっています。
- ◆ 近年、共働き世帯の増加に伴い、幼稚園の園児数の減少は著しく、令和8年度には園児数が10人を下回る園が発生しています。
- ◆ 各園定員 100名



各年5月1日時点 (単位:人)

No.	園名	R2年度			R3年度			R4年度			R5年度			R6年度			R7年度			R8年度		
		4歳	5歳	計	4歳	5歳	計	4歳	5歳	計	4歳	5歳	計	4歳	5歳	計	4歳	5歳	計	4歳	5歳	計
1	吹田第三幼稚園	14	17	31	5	16	21	14	6	20	5	14	19	6	5	11	4	7	11	3	4	7
2	東佐井寺幼稚園	17	29	46	11	21	32	12	21	33	4	17	21	11	8	19	6	15	21	3	8	11
3	片山幼稚園	21	20	41	10	20	30	13	13	26	7	18	25	7	12	19	11	9	20	2	12	14
4	東山田幼稚園	31	46	77	25	33	58	17	30	47	10	22	32	18	10	28	6	17	23	4	7	11
合計		195			141			126			97			77			75			43		

市立幼稚園の課題

01



集団教育の機会の確保

幼児教育の重要な目的である集団での
学び合いの機会の確保が困難な状況

02



教育・保育人材の確保 施設の維持管理

教育・保育人材の確保や老朽化が
進む施設の管理運営経費が課題

市立幼稚園のあり方の検討

- ◆ 子供たちにとって最善の教育・保育環境を確保するため、また、限られた人材や財源を有効に活用し、持続可能な施設運営を図るため、今後の市立幼稚園のあり方について検討します。
- ◆ 今後の市立幼稚園のあり方については、本市のこども計画等を踏まえ、集団での学び合いの必要性や地域における幼児教育・保育施設の需給状況等を見極めつつ、近隣市立園との集約等による幼保連携型認定こども園への移行や、休園、閉園も含めた検討を進め、総合的に判断します。

保護者の方への周知

令和9年度の園児募集の案内に、「今後市立幼稚園のあり方について検討していくこと」を記載する予定です。

